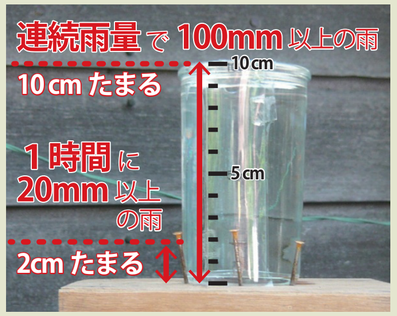
! 雨量に注意する習慣をつけましょう

気象予報などを見るときには、雨量にも気を配る習慣をつけましょう。自宅周辺の雨量を測ることで、自宅周辺の土砂災害の危険の高まりを把握しやすくなります。
右図の雨量が土砂災害発生の危険が高まる目安とされています。

高さ 10cm のカップ酒の瓶を使うと風で倒れにくく便利です



! 前ぶれ（予兆現象）に注意しましょう

がけ崩れの発生前には・・・


がけに割れ目が見える


がけから水が湧き出ている


がけから小石がぱらぱら落ちてくる

土石流の発生前には・・・


急に川の流れが濁り、流木が混ざっている


雨が降り続いているのに、川の水位が下がる


山鳴りがする

地すべりの発生前には・・・


沢や井戸の水が濁る


地面にひび割れができる


斜面から水が噴き出す

この他にも・・・

- 地鳴り、木根のちぎれる音、岩の割れる音などがする
- ものの腐ったようなにおい（腐葉土、下肥のにおい）がする
- 小動物が異常行動（騒ぐなど）をとる　など

! 情報を積極的に収集し、避難対応に活用しましょう

テレビ・ラジオ
※テレビのデータ放送は下記参照



市や気象庁のホームページ



緊急速報メール（エリアメール）



いわてモバイルメール
※ QRコードから登録できます

防災行政無線・広報車・防災釜石広報 ☎ 0800-8003199
※防災行政無線の放送内容を電話で確認できます



家族、ご近所、お知り合いに聞くのも立派な情報収集！！


住民

自主防災組織（町内会）



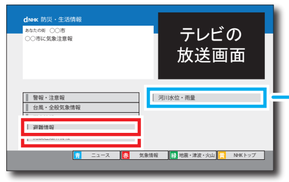
データ放送での確認方法　地デジテレビで NHK（地デジ1ch）を選択し、リモコンのdボタンを選択

❶ 防災・生活情報を選択



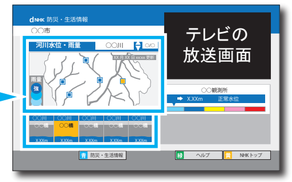
（テレビ画面イメージ図）

❷ 確認したい情報を選択



（テレビ画面イメージ図）

❸ 河川の水位・雨量を確認



（テレビ画面イメージ図）

荒川町内会自主避難計画

荒川町内会は、住民全員が雨の量や周辺の様子に注意し、地域で避難開始を判断して住民全員で避難する仕組みをつくりました。以下の項目をみんなで実践しましょう。

①　日頃からやっておくこと

裏面の防災マップを参考に、降雨時に確認できる予兆現象や、自宅周辺の避難場所（比較的安全と思われる場所や建物）、避難経路、住民間の連絡方法を確認しておきましょう。カップ酒の瓶等を用いて、雨量を計測する習慣をつけておきましょう。

②　雨が降り始めたら、自宅周辺の状況に注意を払う



- 土砂災害が起こる目安の雨が降っていないか、家の外の様子を確認しましょう。（※1 時間に 20mm、連続雨量で 100mm の雨で土砂災害が起こりやすいと言われています。）
- **避難開始の目安となる現象**が起きていないか、自宅周辺の様子を確認しましょう。

③ 自主避難基準に達したら、町内会役員等に報告して、すぐに避難対応！



自主避難基準　以下のような状況になったら、自主避難を開始してください。

- □ 自主避難の基準 が確認された場合（洪水・土砂災害緊急避難地図を参照）
- □ 地域内のがけや沢で **土砂災害の予兆現象（裏表紙に示す現象）** が確認された場合
- □ 釜石市役所が **“避難準備・高齢者等避難開始”、“避難勧告”、“避難指示（緊急）”** を発令した場合

※上記以外の状況でも避難が必要と思う状況になった場合や、台風接近などで早い段階で大雨が予想される場合においても、身を守ることを第一に考えた避難対応をしましょう。

いざというときの避難対応　＼＼「早めの避難」が重要！ 避難に時間のかかる方は早めの行動が必要です／／

台風や深夜の大雨が事前に予測される場合	唐丹小学校･唐丹中学校 体育館
遠くまでの避難が困難な場合	比較的安全と思われる最寄りの建物・場所へ避難 →上流部（木川田宅より上流）は、荒金集会所へ →中流部（荒川集会所より上流）は、青山宅へ →下流部（荒川集会所より下流）は、佐々木宅、消防団所、雲南宅へ
移動に危険が伴う場合（すでに道路が冠水など）	がけや沢から少しでも離れた頑丈な建物の２階以上へ 状況によっては 自宅待機が最も安全な場合もあります 

この計画は、平成 28 年 10 月～12 月に実施した「洪水・土砂災害に対する警戒避難体制の整備支援事業」を通じて、荒川町内会として検討したものです。裏面の地図に令和元年 10 月の台風 19 号被害状況を追加しました。

釜石市　唐丹地区

洪水・土砂災害緊急避難地図

荒川町内会

現在の技術では正確な雨量予測や災害発生地の特定が難しいため、避難勧告等に依存しすぎず、**地域住民自らで危険に気づき、いざというときに避難の判断につなげる**ことが大切です。

住民懇談会で把握した情報

- 避難開始の目安となる現象
- 降雨時に確認される前兆現象
- 過去に発生した災害
- その他の事柄
- 比較的安全と思われる場所や建物

その他の地域情報

避難の目安

◆　町内５箇所の簡易雨量計設置箇所で連続雨量１００mm を超えたとき

【連絡体制】
異常発見者または消防団
→町内会長へ連絡→避難の呼びかけ
→消防団・市に通報

土砂災害の危険性

岩手県砂防基礎調査結果に基づく区域

- 土砂災害の危険性が特に高い区域
- 急傾斜地崩壊の危険性が高い区域
- 土石流の危険性が高い区域

岩手県による土砂危険区域

- がけ崩れの発生するおそれのある区域
- 土石流の発生するおそれがある区域

その他の危険性

- 平成 23 年東北地方太平洋沖地震津波の浸水範囲

この地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の空中写真及び基盤地図情報を使用した。（承認番号　平 28 情使、 第 618 号）

立石橋冠水（流木あり）
30 分位で水位が 1m 上昇（平成 28 年台風 10 号、久保正春宅付近）

山肌が露岩（7～8 年前、大雨で崩れたことがある）

荒川集会所より上流は青山宅へ避難

荒川集会所より下流は佐々木宅へ避難

消防団屯所
（荒川左岸下流部の避難場所として利用可）

流路変更により溢れやすくなっている

斜面崩れ、道路不通（平成28 年台風10号）

かなり前に、川がはん濫し、住宅が浸水したことがある

熊の木沢からの出水で、下流の住家２軒が床下浸水することが繰り返し発生している

東善忠宅

青山一二三宅

郷六橋が落ちたことがある（30 年くらい前の 300mm 以上の雨の時）

大雨のたびに落石あり

大雨で川がはん濫し、ふ化場の鮭が流出(30 年位前、300mm 以上の雨のとき)

木川田宅より上流の地区は、荒金集会所へ避難

佐々木宅

落石あり（平成 28 年台風 10 号）

大水で道路損壊（令和元年台風 19 号）

林道より土砂流入（令和元年台風 19 号）

荒川集会所土砂災害の危険性が高い

大雨のとき護岸（石積）が流される事がある

沢水合流点土砂堆積しあふれた（令和元年台風19号）

川原宅

大雨のとき、川の増水で、護岸（石積）が崩れ、県道が通れなくなることがある（久保公正宅付近）

集会所の沢は排水路が詰まって溢れることがある

沢が溢れることがある（平成 28 年台風 10 号のとき、溢れそうになった）

30 年位前、300mm 以上の大雨のとき、沢出口付近で床下浸水あり（平成 28 年台風 10 号のときには、川が溢れそうになった）

雲南幹夫宅
（海岸付近および大石方面受け入れ可能）

0　500　1000　1500　2000 m

下流方

町内５箇所の簡易雨量計設置箇所で連続雨量１００mm を超えたとき

上流方

砂防ダムができる前に、橋が落ちたことがある

道路を川のように水と土砂が流れ通行不可。左岸の住宅が孤立。（平成 28 年台風 10 号、佐藤徳一郎宅付近）

増水で橋が冠水し、通行不可。左岸の住宅が孤立。（平成 28 年台風 10 号、鈴木武雄宅付近）

道路を川のように水・土砂が流れた（平成 28 年台風 10 号、小野寺未徳宅付近）

柴又宅

木川田宅より上流の地区は、荒金集会所へ避難

荒金集会所

小野寺徳男宅

0　500　1000　1500　2000 m

平成 29 年３月作成